令和4年度用

市出資法人
団体自己評価（自己評価シート）

団体名：公益財団法人
伊賀市文化都市協会

所管部課名：企画振興部文化振興課

団　体　名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]

【経営基本情報】

○団体の基本情報

所　在　地	三重県伊賀市西明寺3240番の2				
ＨＰアドレス	http://www.bunto.com				
電話番号	0595-22-0511		ＦＡＸ番号	0595-22-0512	
代表者	理事長　中村　忠明		設立年月日	平成9年5月19日	
市所管部等	企画振興部文化振興課	市出資額	100,000　千円	市出資割合	100.00 %
団体の目的	地域住民の教育・芸術・文化・生涯学習の振興に資するため、主催公演、講座、体験活動等を行うとともに、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する等の事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする。				

○主な事業内容

[事業規模]　（単位：千円）

事業名		令和２年度	令和３年度	令和４年度	備考
(1) 芸術文化振興		170,537	212,470	232,218	
	全事業合計に占める割合	34.52%	38.88%	39.81%	
(2) 生涯学習振興		159,419	168,436	178,224	
	全事業合計に占める割合	32.27%	30.82%	30.55%	
(3) 地域産業振興		40,417	40,259	42,320	
	全事業合計に占める割合	8.18%	7.37%	7.26%	
(4) (1)～(3)以外の事業		123,590	125,328	130,578	
	全事業合計に占める割合	25.02%	22.93%	22.38%	
全事業合計		493,963	546,493	583,340	

[事業の概要]

(1) 地域住民の芸術文化の普及・振興と地域の教育、福祉の増進に資する事業

(2) スポーツ、野外活動の普及や知識・教養の習得を図り、市民の体力や運動技術の向上、心身のリフレッシュ、自己実現など生涯学習の推進に資する事業

(3) 産学官連携による環境・食・文化等に関する共同の研究開発、企業の支援及び地域文化力の向上を通じて、地域産業の振興と健全な地域社会づくりに資する事業

(4) 文化遺産、読書推進事業ほか

○財務概況　（単位：千円）

				令和２年度	令和３年度	令和４年度
正味財産増減計算書	経常収益　(a)			497,481	544,715	584,763
	経常費用　(b)			493,963	546,493	583,341
	当期経常増減額　(c)＝(a)－(b)			3,518	△ 1,778	1,422
	当期経常外増減額（経常外収益－経常外費用）　(d)			0	0	0
	当期一般正味財産増減額　(e)＝(c)＋(d)			3,518	△ 1,778	1,422
	当期指定正味財産増減額　(f)			△ 21,746	△ 21,746	△ 21,746
	当期正味財産増減額合計　(g)＝(e)＋(f)			△ 18,228	△ 23,524	△ 20,324
貸借対照表	資産			557,799	550,412	530,170
		負債　(h)		184,690	201,298	201,526
			指定正味財産　(i)	167,786	146,040	124,294
			一般正味財産　(j)	205,323	203,074	204,351
		正味財産　(k)＝(i)＋(j)		373,109	349,114	328,645
	負債・正味財産合計　(l)＝(h)＋(k)			557,799	550,412	530,171

団体名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]

○財務に関する主な指標

	指　　標	計　　算　　式	令和２年度	令和３年度	令和４年度
安定性	正味財産比率	正味財産／(負債＋正味財産)	66.89 %	63.43 %	61.99 %
	借入金依存率	借入金／(負債＋正味財産)	0.00 %	0.00 %	0.00 %
	経常比率	経常収益／経常費用	100.71 %	100.33 %	100.24 %
	自己収益比率	自己収益／経常収益	8.40 %	8.41 %	8.44 %
収益性	当期経常増減率	当期経常増減額／経常収益	0.71 %	0.33 %	0.33 %
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額／(負債＋正味財産)	0.63 %	0.32 %	0.27 %
効率性	人件費比率	人件費／経常費用	41.89 %	38.62 %	38.10 %
	管理費比率	管理費／経常費用	6.62 %	7.42 %	5.56 %

○役職員の状況　　(※派遣職員は含まない)

		令和２年度	令和３年度	令和４年度	備　　考
常勤役員		兼務1 人	兼務1 人	兼務1 人	R4平均年齢: 歳
	うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R4平均年収: 千円
常勤正規職員		10 人	10 人	10 人	R4平均年齢: 49.0 歳
	うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R4平均年収: 5,838.0 千円
その他職員		96 人	98 人	98 人	
	うち市退職者	10 人	11 人	11 人	

○市からの財政的支援など　　(単位:千円)

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
委託料	409,835	435,163	457,704
補助金・助成金	16,616	16,788	18,378
負担金	0	0	0
借入金(期中に借り入れた額の合計)	0	0	0
その他市支出金(追加出資額等)	0	0	0
計	426,451	451,951	476,082
借入金残高(期末残高)	0	0	0
債務保証額(期末残高)	0	0	0
損失補償限度額	0	0	0
損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	0	0	0

団　体　名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]

○団体の目標達成状況等

●中・長期経営計画の策定の有無

有	■	計 画 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで	策定予定時期	
無	□				

●中・長期経営計画による目標及びその達成状況

目　標	当協会は、文化芸術の振興を牽引する専門組織として、伊賀市の「ビジョン」、「条例」に基づく、「プラン」の7つの基本方針（注）に沿って、文化ホールを拠点として優れた文化芸術の鑑賞機会の提供、人材の育成、文化芸術活動への支援をはじめ、多様な文化まちづくり事業を実施し、更なる文化芸術の普及、振興に取り組みます。 また、老朽化した施設の改修等に向けて、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」を推進するよう施設管理者として伊賀市に積極的に進言・アドバイス等を行うとともに、「伊賀市スポーツ推進計画」の推進に向けて、伊賀市スポーツ協会の事務局として伊賀市と連携・協力しながら、スポーツの振興や健康増進活動に取り組んでいきます。 今後は、令和3年度の伊賀市文化会館開館及び当協会設立30周年の節目を契機に、35周年、40周年へと更なる飛躍に向けて、「ココロにぶんと。」をキャッチフレーズに、創作的かつ地域住民の「心に響く」事業、「心を繋ぐ」事業など、多様な事業を展開するとともに、文化芸術を通じた地域の活性化等に取り組む実行組織などへの参画、関係機関・団体との連携、地域や市民との協働をより一層推進しながら、広範な文化的資源や営みとの連携・融合等により、まちの魅力の発信、観光や地域産業の振興、中心市街地の活性化など、地域課題の解決に向けた「文化で創る　文化が繋ぐ まちづくり」の推進に取り組みます。
実　績	第１期中期経営計画（前期5か年間）に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く“文化都市”を目指して」の実現に向けて、3つのミッション「未来を見据えた事業の推進」「文化がつなぐ ふれあい豊かなまちづくり」「協働による横断的な地域の活性化」、2つのバリュー「安心・安全・快適な施設運営」「持続可能な専門組織の基盤づくり」を基軸に、「『ココロにぶんと。』心に響き、心を動かす事業を！」「子どもたちに夢を、若者世代に魅力を！」「常に『発想』『創造』『改革』を！」をスローガンとして、計画1年目として、すべての人が芸術文化に触れる機会を提供し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業（自主文化事業）を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進した。 さらには、文化ホール、文化財施設、ミュージアム等を活用した各種の文化まちづくり事業や、市内の小中学校・福祉施設等へのアウトリーチ事業の展開によって、芸術文化、体験学習、生涯学習、学校教育、地域福祉の振興に資するだけでなく、文化振興を手段とした新しい地域の創造に挑戦した。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与した。

●年次事業計画による達成目標

令和4年度 目標	令和4年度は、第1期中期経営計画（前期5か年間）に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く“文化都市”を目指して」の実現に向けて、3つのミッション「未来を見据えた事業の推進」、「文化がつなぐ　ふれあい豊かなまちづくり」、「協働による横断的な地域の活性化」、2つのバリュー「安心・安全・快適な施設運営」、「接続可能な専門組織の基盤づくり」を基軸に、「『ココロにぶんと。』心に響き、心を動かす事業を！」、「子どもたちに夢を、若者世代に魅力を！」、「常に『発想』『創造』『改革』を！」をスローガンとして、すべての人が芸術文化に触れる機会を提供し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業（自主文化事業）を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、地域住民の教育、文化芸術、体験学習、生涯学習の振興に資するばかりでなく、文化振興を手段とした新たな地域の創造に挑戦する。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与する。
令和4年度 実績	第1期中期経営計画（前期5か年間）に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く“文化都市”を目指して」の実現に向けて、3つのミッション「未来を見据えた事業の推進」「文化がつなぐ ふれあい豊かなまちづくり」「協働による横断的な地域の活性化」、2つのバリュー「安心・安全・快適な施設運営」「持続可能な専門組織の基盤づくり」を基軸に、「『ココロにぶんと。』心に響き、心を動かす事業を！」「子どもたちに夢を、若者世代に魅力を！」「常に『発想』『創造』『改革』を！」をスローガンとして、すべての人が芸術文化に触れる機会を提供し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業（自主文化事業）を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進した。 さらには、文化ホール、文化財施設、ミュージアム等を活用した各種の文化まちづくり事業や、市内の小中学校・福祉施設等へのアウトリーチ事業の展開によって、芸術文化、体験学習、生涯学習、学校教育、地域福祉の振興に資するだけでなく、文化振興を手段とした新しい地域の創造に挑戦した。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与した。
令和5年度 目標	令和5年度は、当協会が定める第1期中期経営計画（前期5か年間）に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く“文化都市”を目指して」の実現に向けて、3つのミッション「未来を見据えた事業の推進」、「文化がつなぐふれあい豊かなまちづくり」、「協働による横断的な地域の活性化」と、2つのバリュー「安心・安全・快適な施設運営」、「接続可能な専門組織の基盤づくり」を基軸に、「ブラッシュアップ」をスローガンとして、すべての人が芸術文化に触れる機会を提供し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業（自主文化事業）を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、地域住民の教育、文化芸術、体験学習、生涯学習の振興に資するばかりでなく、文化振興を手段とした地域の創造に挑戦する。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与する。

団　体　名	公益財団法人伊賀市文化都市協会

団体自己評価結果

A（90%～100%）：良好な事象や傾向がみられる
B（60%～89%）：やや良好な事象や傾向がみられる
C（30%～59%）：改善を要する
D（0%～29%）：大いに改善を要する

	比　率	評　価
目　的	100 %	A
事　業	100 %	A
経営計画	100 %	A
経営状況	100 %	A

団体自己評価表

1．目的に対する評価

		比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の目的は現在でも社会的要請があるか					①
2	民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か					①
3	市との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか					①
4	事業内容は目的に対し意義・効果が認め られるか					①
5	団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか					①
6	社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか					①
7	市民に対し情報公開・情報提供しているか					①

2．事業に対する評価

		比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか					①
2	事業毎に目標を設定しているか					①
3	目標の達成状況を評価・活用しているか					①
4	顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか					①
5	顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か					①
6	内部統制は十分に実施されているか					①
7	危機管理体制は十分に整備されているか					①
8	組織体制は十分に整備されているか					①
9	管理費比率及び人件費比率は適正か					①

3．経営計画に対する評価

		比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか					①
2	中長期経営計画を策定し、運用しているか					①
3	外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか					①
4	中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか					①
5	年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか					①
6	中長期経営計画、年次事業計画は市の方針を反映したものとなってしているか					①
7	計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか					①
8	計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか					①

4．経営状況に対する評価

		比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	収支の状況は健全であるか					①
2	累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか					①
3	財務基盤についての指標は適正か					①
4	収益における市への依存度は適正か					①
5	総資産当期経常増減率は適正か					①
6	開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか□					①
7	債権管理は十分か					①
8	借入金は返済可能か					①
9	基本財産や運用財産を適正に運用しているか					①
10	必要な額の特定資産（引当金）が設定されているか					①

※ 回答　①＝5点　②＝3点　③＝1点　④＝0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
比率＝（合計点）／（総回答数×5点）×100

団　体　名	公益財団法人伊賀市文化都市協会

《団体自己評価コメント》

目　的	社会経済環境が変化する中にあっても、文化や芸術は心豊かな地域社会の形成に重要な役割を果たすものであり、当財団は、多様な芸術・文化に接する機会の提供、地域や各種団体等との連携事業、文化芸術活動への支援など公益目的事業を展開し、芸術・文化の普及、振興等を担う専門組織として、十分にその役割を果たしている。
事　業	多様な意見を聴く委員会の開催やアンケート調査等を積極的に実施し、市民ニーズを的確に把握し活用することにより、公益性の高い各種事業を限られた財源・体制で効果的、効率的に実施できるように努めており、地域や他団体等からも評価を得るなど、芸術・文化の普及・振興、地域の文化的遺産の保存・振興、スポーツ等による生涯学習振興、地域産業の振興等に一定の成果を上げている。
経営計画	市が進める「公共施設の最適化計画」については、文化ホールをはじめ各施設の具体的な計画が未だ示されていないが、各施設の管理運営計画のほか、芸術・文化の振興についての活動方針等は、市の総合計画におけるまちづくりの方向性、令和元年度に策定された伊賀市文化振興ビジョンならびに伊賀市文化振興条例、及び財団の設立目的を踏まえ、当財団として年次ごとに運営方針、事業計画を策定し、芸術・文化の振興等に全力で取り組んできたが、令和3年5月に策定された伊賀市文化振興プラン(前期実行計画)等も踏まえ、令和4年度から5年間の中期経営計画を令和3年度に作成し令和4年度から同計画に基づき事業を実施している。
経営状況	公益認定法人として、関係法令を遵守することで財務に関する基準を満たすとともに、財務会計上、健全な経営を維持することができている。
総括コメント	芸術・文化の普及、振興を推進することを目的に設立された当財団の役割は、今後においても変わることなく、心豊かな活力ある地域社会の形成にとって極めて重要な意義を持ち続けるものであると考えている。

【市の審査及び評価結果】

空白：団体自己評価結果と概ね同じ評価

＋：団体自己評価結果に比べて高く評価（良好な点が認められる）

－：団体自己評価結果に比べて低く評価（課題が認められる）

		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令　和　４　年　度
目　的	団体自己評価	A	A	A	市民ニーズや、社会経済状況の変化に対応し、経済性や効率性との両立を図りつつ公益目的を果たす努力を続けている。行政や民間企業、他の非営利団体等が担えない役割を果たしている。
	市の評価				
事　業	団体自己評価	A	A	A	限られた人的・物的資源を活用し最大効果を挙げるべく努めている。単なる成果追求ではなく、公益性を重視し、多様なニーズに対応した事業を効率的に展開できるよう努めている。
	市の評価				
経営計画	団体自己評価	B	B	A	令和4年度から令和8年度までの期間を対象に策定した中期経営計画に基づき経営を行っている。
	市の評価				
経営状況	団体自己評価	A	A	A	公益認定法人として収支相償など財務3基準を満たしつつ、経費節減、民間補助金の確保等自主財源の確保に努め、健全経営、着実な経営努力を続けている。
	市の評価				

《市の総括コメント》

文化会館など市から受託した各指定管理施設などの適正な管理運営やそれらの施設を拠点とし、伊賀市文化振興ビジョンにおける中核団体として文化芸術を次世代につなぐ育成プログラムを新たに設けるなど数々の自主事業を展開し、本市の教育、芸術、文化、生涯学習、地域産業の振興等に寄与し、また市民との協働や市内の関係機関・団体との連携をますます深めている。
また、コロナ禍の状況変化に応じ感染予防対策等を行い、文化ホール等を利用した事業を実施するなど、公益財団法人の設立目的に適う専門性、継続性等を担保できる組織として成長している。